

令和4年度 農業やる気発掘夜間ゼミ オンライン ～受講生からの質問と回答～

【開催】第1回 就農準備・県の就農施策・多様な担い手

NO	質問	回答
1	<p>・専業としての就農以外の方法も道としてあるのでしょうか？ ゆくゆくは兼業農家として引継いでいくつもりがあるので今回参加させて頂いております。</p>	<p>・兼業として就農する道もあります。親が米や野菜を栽培しており、会社定年後に親の農地を引き継いで、農業をはじめると定年帰農というケースも多いです。今回のゼミで農業を学習され、将来に向けて準備いただくと良いです。</p>
2	<p>・研修とは時間が決まっているのか気になりました。 ・果樹の栽培をやりたいと思っておりますが、その中でもイチジクをやりたいと思っております。イチジクは教えて頂けないのでしょうか？柿も気になりました。</p>	<p>・本格的な就農に向けた研修は、作物にもよりますが1～2年の研修期間を設けていることが多いです。 ・果樹栽培につきまして、柿については県内で就農研修拠点を設けておりますが、イチジクについては残念ながら設けておりません。第6回の果樹の講座にて、具体的な質問をいただければ果樹担当職員から回答させていただきます。</p>
3	<p>・地域により、作物ごと、露地、施設ごとで、大きくかわるとおもいますが、最低限、就農時に必要な器具、機器、設備、農業用水、農地の広さなどを、一例でよいので示してくださいと、目標値が明確になり、今後の活動がしやすくなるので助かります。 ・営農計画について、いつごろから、どこで学ぶことができるのでしょうか？</p>	<p>・トマトやイチゴ等の施設栽培では、一例として、ハウス、養液栽培システムや給排水施設（養液栽培の場合）、暖房機、動力噴霧器などが必要であり、20a（2,000㎡）程度の面積でスタートすることが多いです。露地栽培は、栽培する作物によって経営する面積は異なってきますが、トラクターや管理機、収穫機等の機械が必要です。 ・具体的に就農する場所や栽培作物等が決まりましたら、地域の農林事務所にお問い合わせいただければ、営農計画の助言はいただけます。</p>
4	<p>・新規に始めた個人や法人で既に農業をやめてしまった数のデータはありますか。</p>	<p>・個人で就農した場合のデータはありますが、法人に雇用され退職した方のデータはありません。平成24年度から令和3年度（過去10年間）の新規就農者数901名のうち、43名が離農されており、離農率は約5%になります。</p>

5	<p>・令和5年4月から就農予定ですが、経営発展支援事業は、来年度も内容に変更ないでしょうか。もし内容に変更があると営農計画にも実際の営農にも大きな変更を余儀なくされます。この事業が確実に継続され、利用できること確約してもらえるとありがたいのです。</p>	<p>・令和5年度の予算編成に向けた農林水産省概算要求では、新規就農者育成総合対策の中に経営発展支援事業が盛り込まれており、令和4年度とほぼ同額、同内容となっているため、大きな変更はないと見込まれます。しかしながら、国予算は例年12月頃におおむね決定され、3月に国会承認されるため、現時点では確約することは困難です。</p>
6	<p>・就農希望者に対して実際に就農に至った方の人数、脱落された方の人数などは教えていただけないでしょうか？</p>	<p>・就農希望者は、冬春トマトを学べる海津市の就農支援センター等の研修拠点又はプロ農家から学ぶことができるあすなろ農業塾で研修を1～2年間受講します。過去10年間においては、当該研修を293名が受講し、96%の割合で就農に至っています。</p>
7	<p>・初年度の収入が低いとありましたが、初年度年収はいくらぐらいになるのでしょうか？</p>	<p>・栽培する作物や経営面積によって収入は異なります。今後、野菜、果樹、土地利用型農業、畜産の順に講座を行いますので、具体的な質問をいただければ担当職員から回答させていただきます。</p>
8	<p>3年後に農業に従事したいと考えていますが、岐阜県や国の就農施策は年によって対象者、期間や交付額などに変化はありますか。</p>	<p>・県ではぎふ農業農村基本計画に基づき、令和7年度を目標年度として各種新規就農支援に取り組んでいます。一方、これらの施策を展開するための予算につきましては、年度ごとに決定するため、社会情勢や財政状況により変化する場合があります。就農支援に関する最新情報は、農林水産省や岐阜県のHP（ぎふ就農ナビ）に掲載しますので御確認願います。また、ぎふアグリチャレンジ支援センターでも随時、就農に関する御相談に対応しておりますので、御活用ください。さらには、新規参入される場合は、1～2年間の研修を受講される場合が多く、その時にも地域ごとに研修会が開催されますので、そういった場も活用願います。</p>

9	<ul style="list-style-type: none"> ・農福連携をすでにはじめている事業所などの情報があれば知りたいです。 ・岐阜市を中心に生産されている枝豆について、海津市で生産、加工（冷凍枝豆への加工）をする場合など、こうした地域外での生産の場合に農地斡旋などは、難しいでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県においても多様な担い手として農福連携の取り組みを進めており、ぎふアグリチャレンジ支援センターに「農福連携推進室」を設けておりますので、御相談ください。なお、農福連携に取り組む事例については、HP (https://www.gifu-notiku.com/noufukurenkeijirei.php) に掲載しておりますので参考にしてください。 ・産地以外の地域で農地を探して就農される方もいらっしゃいます。ただし、産地ではJAさんを通じた販売ルートが確保されている場合が多いのに対し、産地以外で就農されると生産から販路開拓まで行う必要があるため、しっかりした営農計画の作成が必要です。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化が進みずいぶん気候が変化していますが、それに伴って岐阜県の特産物への影響や、新たな品目への取組み等の情報があれば知りたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化により岐阜県内で栽培する作物の生育や病害虫の発生など、様々な影響は出ていると考えますが、農業者や関係支援機関の努力により産地は維持されております。短期的にはあらゆる品目における温暖化の影響を分析しつつ、その対応について、実用化に向けた研究を試験研究機関で行っています。さらには、長期的に、パッションフルーツやアボガド等の導入が可能かどうかについて研究を進めているところです。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・相談から定着までの実際の生活・お金の流れと、新規就農しようとしてあきらめてしまった方たちの詳しい理由を知りたいです。研修開始1年目では、生活費は何で賄うのか、実際はどれ位の生活水準で暮らしているのか、就農開始時は支援金と自己資金を何にどれくらい使用しているのか、定着したころには支援金に頼らずに自活することができるのか、等、詳しい数字とともに、実際の新規就農者の生活スケジュールと合わせてご紹介いただけると嬉しいと感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期の研修等を受講する場合は収入がなくなりますので、その期間の生活資金を蓄えておく必要があります。年齢等の要件が合えば、国の施策である就農準備資金の活用が考えられ、年間最大150万円（最長2年間）の受給を受けることができます。就農時には、生活資金以外にも、施設や機械等の初期投資が必要となり、生活費以外に自己資金を500万円程度確保して始められる方が多いと聞きます。就農後、経営が軌道にのるまで数年かかるといわれていますが、栽培する作物等によっても異なります。

*いただいたご質問のなかで確認中のものがあります。回答が整いましたら後日お答えいたします。